

競技・審判上の注意

- 1 本大会は、2019 年度（公財）日本バドミントン協会競技規則、大会運営規程並びに公認審判員規程により行います。
- 2 棄権をする場合、開会式前ならば各都道府県代表者が代表者会議までに、大会本部へその旨を申し出てください。代表者会議以降ならば、各都道府県代表者もしくは当該プレーヤーがレフェリーにその旨を申し出てください。
(いずれの場合も、棄権届用紙に必要事項を記載し、提出してください。)
- 3 競技の品位を保つため、色付き着衣を使用する場合は（公財）日本バドミントン協会の審査合格品とし、上衣背面中央には都道府県名またはチーム名を必ず明記してください。
(表示については、大会運営規程第 24 条を遵守してください。広告、ロゴ等の表示についても同条を遵守してください。)
- 4 試合進行は、「流し込み方式」（コートが空いたら試合番号順にコール）で行います。本部より事前の選手招集コールのあった選手は選手招集所で待機してください。試合のコール後、5 分経過しても当該選手がコートに入らない場合は、レフェリーの判断により「棄権」とみなします。
- 5 試合の進行状況により、試合開始時間やコートを変更して試合を行うことがあります。選手は時間に余裕をもって、試合会場で待機してください。
- 6 試合が連続する場合は、原則として試合終了後 15 分の間隔を置き、次の試合を始めます。
- 7 すべてのマッチ（試合）前に 3 分間の練習を認めます。ダブルスはパートナーと、シングルスは対戦相手と行ってください。
- 8 審判構成は、主審と線審 2 名とします。サービスジャッジは原則として配置しません。ただし、準決勝並びに決勝は、主審、サービスジャッジ、線審 6 名(または 4 名)で行います。
- 9 シャトルの交換については、主審が必要かどうかを決定します。また、使用シャトルのスピードについては、レフェリーが決定します。
- 10 給水やタオルの使用等、コートを離れる場合は、必ず主審の許可を得てください。
容器については蓋付きのものとし、倒れてもこぼれないものを使用してください。飲み物用のトレイをコートサイドに置きますので、その上に置くようにしてください。
- 11 マッチ（試合）中のけがや病気については、主審の判断によりレフェリーが呼ばれ、レフェリーがその後の判断をします。なお、マッチ（試合）中のけがや病気の応急処置は主催者で行いますが、その後の処置は各自の責任とします。
- 12 各コートのバックバウンダリーライン後方に、コーチ席を 2 席置きます。着席者（監督・コーチ・プレーヤー）は大会 ID を表示し、マッチ（試合）にふさわしい服装で臨んでください。
- 13 競技規則で認められたインターバル時に競技区域に入れるのは、同時に 2 人までです。
- 14 競技場内フロアでは、競技者（監督・コーチ・プレーヤー等）による携帯電話、パソコン等、それに類似したモバイル機器、及びカメラの使用を禁止します。携帯電話は電源を切るか、マナーモードにしてください。
- 15 レフェリーにより失格を宣告されたプレーヤーは、今大会でエントリーしているすべての種目において失格となります。
- 16 選手はマッチ（試合）開始・終了時に、主審（およびサービスジャッジ）とも握手をするよう心掛けてください。